

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

新系列機能保全・臨時修繕の外注化提案 検修全面外注化・転籍攻撃粉碎！

【検修業務外注化提案】

○首都圏本部の車両センター等で新系列車両の機能保全及び臨時修繕作業の委託を進める

(1) 京葉車両センター

対象車種：武蔵野線運用車両（E231系、209系）
委託先：JR千葉鉄道サービス株式会社
実施時期：2026年4月

(2) 鎌倉車両センター中原支所

対象車種：E233系、E127系及びE131系
委託先：株式会社JR東日本運輸サービス
実施時期：2026年10月

(3) 大宮総合車両センター東大宮センター

対象車種：E257系、E261系（253系交番検査含む）
委託先：JR東日本テクノロジー株式会社
実施時期：2026年10月

(4) 長野総合車両センター

対象車種：今後投入予定のE131系
委託先：JR長野鉄道サービス株式会社
実施時期：2026年度下期

※その他の箇所も今後検討していく。

○機能保全の委託を進めていくとともに、各車両センターのあり方について検討を行う。

○交番検査の外注化

対象：高崎車両センター構内で実施している211系の交番検査等。
委託先：JR高崎鉄道サービス
実施時期：2026年4月

JR首都圏本部は新系列の機能保全（旧交番検査）及び臨時修繕の外注化、高崎での検査体制の見直し・交番検査外注化を提案しました。要するに、技術管理室以外はJRに残された検修業務をすべて丸投げ外注化するということです。

「新系列車両の機能保全の外注化を可能とする」とした昨年の提案が実施されたのは今年1日。提案時に会社は「宮城野で

交番検査を委託してきた車両が新系列に置き換わるから」「すべて外注化ではない」などと説明していました。

ところが、舌の根も乾かぬうちに外注化拡大提案です。さらに、今後も「機能保全外注化を進め、車両センターのあり方も検討」としています。

「鉄道業務はJR本体に残さ
職場から怒りの反撃を！

ない」という全面外注化と分社化・転籍攻撃が急ピッチで進められようとしています。

この攻撃はグループ会社の再編と完全に一体です。JRだけでなくCTSの仲間にも転籍や「孫請化」などの攻撃が狙われています。JR東とCTSの天降り幹部が一体となって、現場をさらに「下へ下へ」と突き落とそうとしているのです。許すことはできません！

この攻撃は阻止できません。とくに「転籍」は、労働者、労働組合の同意なく強制的なことはできません。反対を貫き、団結して闘えば攻撃は打ち破れます。カギは闘う労働組合の力です。動労千葉とともに声を上げよう。